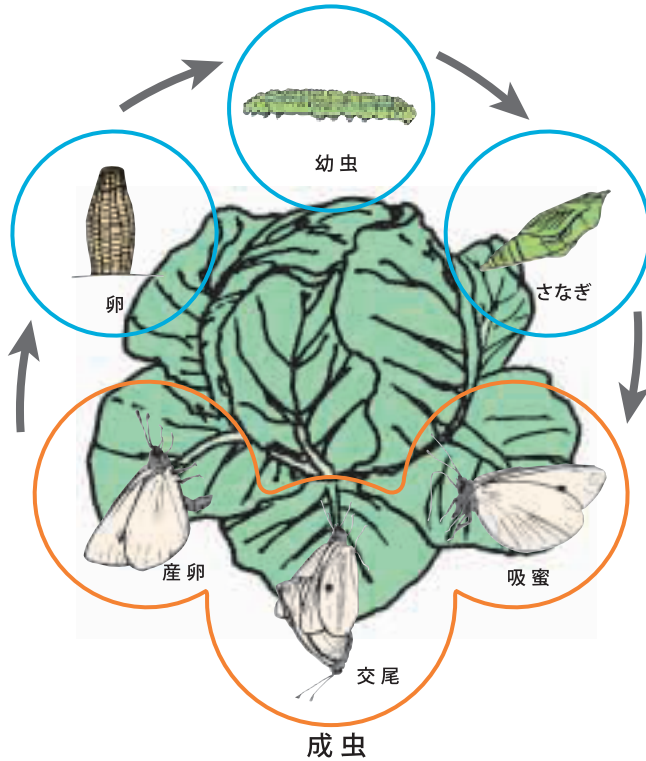


[モンシロチョウの飼いかた]

モンシロチョウの一生



はねのつけ根やはねの紋がオスより黒い。

卵・幼虫のとりかた

- モンシロチョウは、畑のキャベツなどのアブラナ科植物の葉のうらに、1つずつ卵を産みます。この卵を大きな葉ごととってきます。畑でとる時は、農家の人にことわってからにすること。
- 幼虫は、葉をかじったあとやフンを目印に見つけます。しかし、初夏のころになると、畑でとった幼虫は、アオムシコマユバチというハチに寄生されていることが多くなるので、5月中旬までにとった方がいいでしょう。

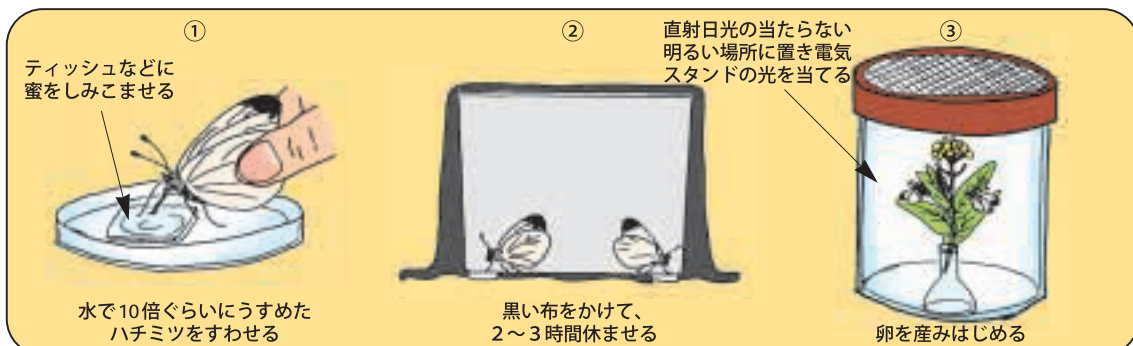


モンシロチョウの幼虫から出るアオムシコマユバチの幼虫

アオムシコマユバチは小さなハチで、アオムシの体内に卵を産みつけます。ふ化した幼虫は、アオムシの体を食べつくすと、外へ出てまゆを作ります。

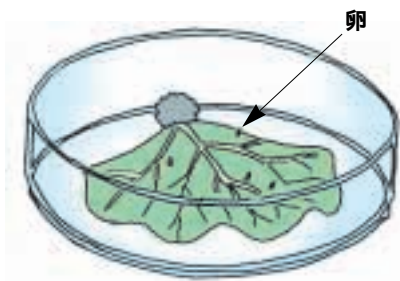
卵の産ませかた

- 野外で採ったメスの成虫に、卵を産ませてもらいましょう。



幼虫の飼いかた

卵は、葉についたままとってくる
3～5日くらいで幼虫がふ化する



幼虫が5mm以上になったら大きな容器に移す

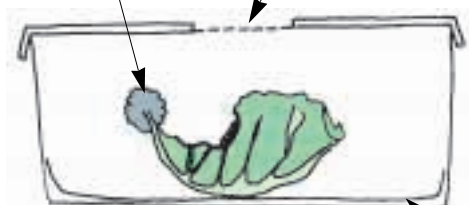
食草



ぬらしたティッシュを巻く方法

葉の切り口に水を含ま
せたティッシュをまき
アルミでつつむ

ふたに穴をあけネット
でふさぐ

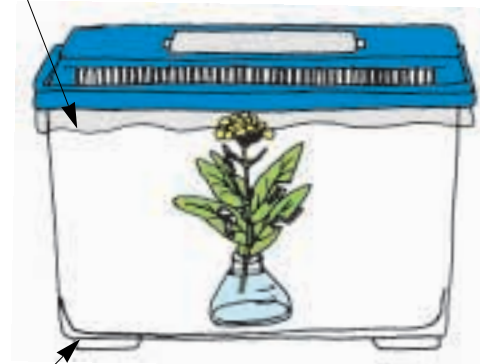


タッパ - 容器

敷き紙を敷く

ピンに水差しする方法

ガーゼなどのネットをふたの間にはさむ



飼育容器

幼虫は毎日世話をしよう

容器にフンがたまるので、食草を取りかえるときにそうじをする。

容器の中が湿っているとカビや病気の原因になるので、水滴がついていたらふきとる。

容器の底にしいた紙は、毎日取りかえる。

幼虫のからだを直接さわらず、やわらかい筆などで、そっとすくうように扱う。

幼虫は脱皮を繰り返して大きくなり、12日～20日ぐらいするとさなぎに、その後7～9日ぐらいで成虫になる。

病気かなと思ったら...

菌やウィルス性の病気はすぐに広まります。

次のような幼虫がいたら、別の容器に移して飼いましょう。

いつもより動きがにぶく、エサを食べなくなった。

(ただし、脱皮をする時やサナギになる時は体を葉に固定して食べなくなります)

からだの色が悪くなった。

液体のフンをしたり、口から液をはいたりしている。